

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



# 茅小だより 6月号

令和4年5月31日（火）

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校  
校長 吉野 利彦

## 相手を慮る心遣いが 人の心を優しくする

清々しい初夏を迎え、木々の緑も日増しに深くなってまいりましたが、保護者や地域の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学校では、運動会の練習が16日（月）から本格的にスタートし、各学年とも子どもたちの活気あふれる声が、連日、グラウンドや体育館から校長室にも聞こえてきています。練習も最終段階に入り、自分たちが納得のいく演技を保護者の皆様にお見せできるよう、動き出すタイミングや姿勢など、細かい部分まで確認し合いながら、集中して練習に取り組んでいます。当日は、子どもたちの輝く姿をご覧いただけたらと思っております。

さて、最近の新聞で、心が温かくなる記事を目にしたので、ご紹介いたします。一日に数往復しかしないバスを毎日ご利用されている方からの投稿でした。

ある日の夕方、突然大雨が降ってきた際に、バスの運転手さんが、降りる乗客一人一人に、「傘はお持ちですか？」と声をかけていたそうです。別の日には、バス停に到着しても、すぐにはドアを開けず、「無灯火の自転車が来たので、通り過ぎるまでお待ちいただきました。」と言われたそうです。乗客が降りた後の安全まで気遣っていたのですね。この運転手さんは、普段から乗客に、朝は「行ってらっしゃいませ。」、夕方は「お疲れさまでした。」と声をかけているそうです。毎日乗客を乗せて、無事に目的地に着けるよう、神経を張り詰めている職業にもかかわらず、いつも乗客に対する心遣いを大切にされている運転手さんに、感謝の気持ちを少しでも伝えたいとのことでした。

相手を慮る（おもんばかる）心遣いは、人の心を優しくしてくれるものだと、投稿記事を読んで改めて感じました。大人でも子どもでも、自分のことを気にかけてもらっていると感じると、ありがたい気持ちになり、人に対して優しい気持ちで接することができるようになります。ご家庭や地域でも、話題にしていただければと思います。

